

湿地を守るために

湿地の観察にあたり、次の点への配慮をお願いします。大森奥山湿地群の自然を守るため、ご協力をお願いします。

- 観察道は湿地沿いでは足元の悪い箇所や樹林帯のルートとなっています。入山する際には長靴・帽子・長袖姿をお願いします。
- 湿地及び観察道は太陽光発電施設に隣接しています。当該施設及びその周辺敷地内へは立ち入らないください。
- 観察道は湿地保護のため狭くしてあります。静かに歩き、待機場所では譲り合って観察しましょう。
- この湿地には、希少な植物や水生昆虫が生育生息しています。観察道から湿地に降りたり、踏み込まないようにしましょう。
- 写真撮影なども観察道から行うようにしましょう。
- 湿地の生態系を守るため、植物の採取や水生昆虫の捕獲はやめましょう。また、外部からの植物の持ち込みや犬・猫などの同伴はやめましょう。
- 長靴の裏には外部の植物の種子が付着していることがあります。観察前によく泥や種子を落としてください。

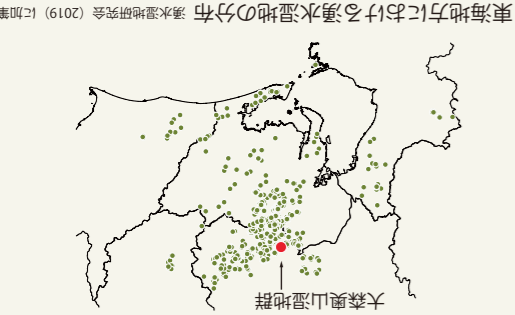
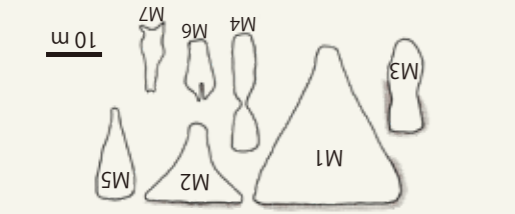
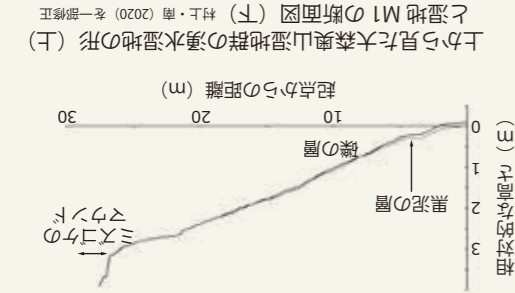
※この湿地群は保護のためガイドが同行しての限定開放としています。観察を希望する場合は、大森奥山湿地群を守る会(代表 斉藤隆穂 *** - ***_***)まで連絡をお願いします。(定期観察会も予定しています)

おもしろくやましゅちぐん 大森奥山湿地群のご案内



ハルリンドウ(花期4-5月)

大森奥山湿地群を守る会



上から見た大森奥山湿地群の湧水湿地の形(上)と湿地M1の断面図(下) 村上・南(2020)を一部修正

東海地方における湧水湿地の分布 湧水湿地研究会(2019)に加筆

横から見た形

湿地を横から見ると緩く傾いています。これより急な傾斜では、滲み出した水を溝を造って流れるため、水が流れても湿地にはなりません。湿地の傾斜は、様ではなく、上部と下部に傾斜が急になる場所があり、それぞれ水が滲み出し、また再び浸みこむ場所があります。湿地は砂礫がむき出しになっており、泥や植物の遺骸から成る層(黒泥層)は全くないか、10cm以下の厚みしかありません。砂礫の下10cmの深さには、水を通さない地層(難透水層)があり、湿地の水は難透水層と湿地表面の間をゆっくり流れます。

上から見た形

斜面の下を要した扇型をしています。湿地を潤す水は斜面の上の方からみだし、下に流れるにつれ、蒸発したり地下に浸み込んだりして量が減り、やがてなくなってしまう。湿地の大きさは、潤す水の量によって決まるため、多い斜面の上の方で広く、下に向かってすぼまる扇型になるのです。滲み出す水だけでなく、流れ込みからも水が供給される湿地では、流れ込みの部分が広がり、きれいな扇型にはなりません。

湧水湿地とは西日本の丘陵地を中心に分布する地中から滲み出した水によって作られた湿地で、泥炭が少なく鉱質土壌を持つことが特色です。希少な動植物種が生育・生息地として保全上重要な生態系ですが、とりわけ東海地方の湧水湿地は東海丘陵要素植物をはじめとした地域固有種・準固有種の分布が重要性を高めています。東海地方には1,600か所以上の湧水湿地が確認されています。

大森奥山湿地群を守る会

私たち「大森奥山湿地群を守る会」は土地所有者及び可見市のご協力のもと、湿地や動植物学が専門の大先輩の先生方のご助言も得て、この貴重な湿地群と希少な動植物を自然遺産として保護するともに、地域の皆さんや小中学生の環境学習の場としても活用し子孫々に語り継いでいこうの思いで会を結成し活動しています。現場での活動内容は、原則月1回行われる水質検査などの定期的モニタリング、湿地の現状の観察や随時に行う観察道の整備などです。

大森奥山湿地群は岐阜県可見市東部に所在し、環境省による「生物多様性の観点から重要度の高い湿地」に選ばれた東濃・中濃湧水湿地群の一部を成っています。この湿地群は標高150mに位置する私有地にあります。敷地には5カ所の小湿地(案内図参照)があり、それらへは保護するために定められた観察道を歩いて15分ほどで着きます。湿地内には、ヒメミミカキアサ、ハルリンドウ、コバノトボウ、トウカイモウセンゴケ、ノギリ、サギソウなどの希少植物が自生し、ハッチョウトンボやヒメタマコウチなどの希少昆虫も見られます。また、湿地群のシジコアサをはじめ、周辺にはコナラ、アカマツ、ソヨゴ、リョウブなどが植生しています。せせらぎに沿った森と湿地がおりなす豊かな自然のなかで四季を体感し、野鳥のさえずりを聞きながら静かなひとときを過ごしましょう。

湧水湿地とは?

大森奥山湿地群とは?

大森奥山湿地群 MAP



サギソウ(花期7月)

ツヅミモ



シデコブシ(花期3-4月)



コバノトンボソウ(花期6月)



サワシロギク(花期8-9月)



ミズゴケ



ヒメミミカグサ(花期8月)



カゲス



イノシシ



モウセンゴケ(花期6月)



トウカイモウセンゴケ(花期6-8月)



ニホンカモシカ



モウセンゴケ(葉)



トウカイモウセンゴケ(葉)

桂ヶ丘

住宅分譲地



湧水湿地群

M10(消滅)

太陽光パネル設置部分

調整池



大森奥山湿地群

可児市

岐阜県

残置森林
(一部造成森林)

M4

M5

M6

M7

M8

法面(造成された傾斜地)

水性昆虫で湿地に生息する。全長20mm前後で体は黒褐色。絶滅が危惧されている。



ヒメタイコウチ



ハッチョウトンボ(♂)



ハッチョウトンボ(♀)

体長17~21mmの日本一小さなトンボとして知られ、世界的にも最小の部類。湿地に住み飛翔力は弱い。名前は愛知県名古屋市の八丁畷に多産したことによる。

大森新田
交差点

星見台

※M1~M3、M9は区域外にあり、保護上の理由から図示しません。